

AI時代に求められる

1名分料金で
2人目無料

ディスプレイ技術の最新動向と将来展望

◆日時:【オンライン受講】2026年1月29日(木) 13:00~17:00

【アーカイブ受講】2026年2月3日(火)~2月10日(火)

◆形式:ZoomによるWEB配信

◆聴講料:1名につき49,500円(税込、資料付)

会員登録(無料)をしていただいた方には下記の割引・特典を適用します。

・1名でお申込みされた場合、1名につき**38,500円**・2名同時でお申し込みされた場合、**2人目は無料(2名で49,500円)**☆HPはこちらから ⇒ <https://www.rdsc.co.jp/seminar/260143>

セミナーお申込みFAX

03-5857-4812

※お申込み確認後は弊社よりご連絡いたします。

●講師:大阪大学 特任教授/山形大学 客員教授 工学博士(Ph.D.) 菰田 卓哉 氏

《受講対象》

5Gの普及が本格化しAI時代が本格化してきた。ビヨンド5Gを踏まえ、今後必要とされるディスプレイ技術の将来動向を知りたい、また、同関連装置・材料・デバイス産業に参入したい、関連ビジネスの今後の展望を知りたい、または参入予定の装置・部材・デバイスメーカー、ディスプレイを応用した商品開発を検討・推進中の技術者、企画担当者。新しいディスプレイビジネスに投資を考えているVC投資関連団体、銀行の担当者など

《習得できる知識》

- 1.ディスプレイ技術・産業の最新市場動向
- 2.AI時代に要求されるディスプレイ技術概要
- 3.有機EL、LED、 μ LEDのデバイス構造とその製造方法
- 4.デバイスの評価方法
- 5.量子ドット(QD)技術とその現状と将来展望
6. μ LEDの実用化と実装技術動向
- 7.有機EL材料、LED材料の基礎知識
- 8.有機EL、マイクロLEDディスプレイ等の期待される応用分野と今後の方向性
- 9.LCD(液晶)の新たな展開。LCD(液晶)の今後の生き残りのか、消えていくのか?TVからの脱却
- 10.最新ディスプレイ事情—メタフォニックOLED、QD-OLED、新構造 μ LED等
- 11.AIやメタバースを見据えた有機EL、マイクロLED、LCD(液晶)の今後の課題と展望

《講座の趣旨》

進展著しいディスプレイ技術だが、上記の観点から見て現在のレベルまで進展しているのか?実は、近年の材料・デバイス技術の進展は一般に認識されているよりはるかに進んでいる。量子ドット(QD)も開発が進み実際に搭載される機器も登場している。さらに、長寿命、高効率、高精細はもちろん、新機能である、フレキシブル、フォルダブル、ローラブル、透明などの新たな機能が実用化されるようになってきた。マイクロLEDによるディスプレイも、ボトルネックであった実装技術に急速に進展が見られ、実用化技術が登場してくるなど、一般に認識されているレベルよりはるかに実用化に近づいている。

本講演では、有機EL、マイクロLED技術の基礎を解説し、量子ドット技術を含めた有機EL、 μ LEDの最新技術開発動向及び課題、更にこれらの新技術によるディスプレイが世の中にもたらす真のインパクトは何かについて議論する。

《プログラム》

1. AI時代に生き残るディスプレイ ー有機ELが新たな段階にー
2. 最新有機EL技術を解剖する
 - 2-1 有機ELの発展の足跡
 - 2-2 有機ELの基本構造とその進化
 - 2-3 製造工程の基本とその進化(蒸着法、印刷法)
3. 封止工程の基本と最新動向(キャップ封止、薄膜封止)
4. 有機EL材料の基礎と最新動向(蛍光材料、りん光材料、TADF材料)
5. サポート材料と塗布型材料
 - 5-1 周辺材料
 - 5-2 塗布型材料の現状と課題(インクジェット、転写・グラビア)
6. 大型化有機ELディスプレイへの対応
 - 6-1 有機ELディスプレイの基礎技術
 - 6-1-1 蒸着型
 - 6-1-2 塗り分け型
 - 6-1-3 白色バックライト型(LG型)
 - 6-1-4 青色バックライト型(Samsung型)
7. 急速に進化したマイクロLEDディスプレイ技術の現状と将来
 - 7-1 マイクロLEDの概要
 - 7-2 マイクロLEDの製造
 - 7-3 一番のボトルネックといわれた実装技術—新しい段階へ
 - 7-4 マイクロLEDのマイクロLEDディスプレイ実現に必要な歩留まり
 - 7-5 AR,VRゴーグル、グラス
 - 7-6 マイクロLEDと大型ディスプレイ
8. ディスプレイの性能向上に資する新技術量子ドット(QD)技術
 - 8-1 なぜQDが有機ELやマイクロLEDの性能向上に期待されるのか?
 - 8-2 量子ドットQDの特徴と種類
 - 8-3 QDの実用化例
 - 8-4 今後のQDの開発動向と応用展開
9. まとめ

【質疑応答】

※この講座は職場や自宅のPCでオンライン会議アプリZoomを使って受講できます。受講方法は申込後にご連絡いたします。

『ディスプレイ動向』セミナー申込書 ※ご希望の受講形式どちらかにチェックを入れて下さい⇒☐オンライン ☐アーカイブ

会社・大学			
住所	〒		
電話番号		FAX	

お名前	所属・役職	E-Mail
①		
②		

会員登録(無料) ※案内方法を選択してください。複数選択可。

☐Eメール☐郵送

● セミナーの受講申込みについて ●

左の申込みフォームに必要事項をご明記の上、FAXしてください。お申込み後は、弊社より確認のご連絡をいたしまして受講券、請求書をお送りいたします。

セミナーお申込み後のキャンセルは基本的にお受けしておりませんので、ご都合により出席できなくなった場合は代理の方がご出席ください。

お申込み・振込に関する詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/entry>

個人情報保護方針の詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/privacy>

株式会社R & D支援センター <https://www.rdsc.co.jp/>

〒135-0016 東京都東区東陽3-23-24 VORT東陽町ビル7階

TEL 03-5857-4811

FAX 03-5857-4812